

HARUO
OHARA
FOTOGRAFIA

プレスリリース
高知県立美術館 2016.03



朝の雲、1952年 パラナ州テラ・ボア
©Haruo Ohara/ Instituto Moreira Salles Collections

ブラジルの大地と光、
ささやかで、愛おしい家族の風景
鋤を手に持ち、カメラを肩にかけて・・・
ブラジルの移民、大原治雄の日本初の展覧会

大原治雄写真展

—— ブラジルの光、家族の風景

2016年4月9日(土) - 6月12日(日)

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI
〒781-8123 高知市高須353-2 TEL.088-866-8000 FAX.088-866-8008

大原治雄写真展

——ブラジルの光、家族の風景
高知県立美術館 2016.4.9-6.12

■開催趣旨

大原治雄（1909～1999）は、高知から移民としてブラジルに渡り、農業を営みながらブラジルの自然や家族たちの姿、変わりゆく Rondônia の町を写真に収め、ブラジル国内で近年評価が高まっている写真家です。本展は、大原治雄の写真作品を日本で初めて紹介する展覧会です。

大原は、1909年、高知県吾川郡三瀬村（現いの町）に生まれました。1927年、17歳で家族らと集団移民としてブラジルに渡り、はじめサンパウロの農園で農場労働者として働き、その後未開拓の地、パラナ州 Rondônia に最初の開拓者の一人として入植します。28歳の頃に小型カメラを購入し、農作業の合間に趣味で写真を撮るようになります。独自に研究を重ねながら技術を習得し、次第にカメラに没頭していきます。1951年には、サンパウロのフォトシネクラブ・バンデイランチの会員になり、国内外の写真展にも出品するようになります。当時はほとんど無名のアマチュア写真家でしたが、1970年代初頭頃から徐々に知られ始め、地元パラナ州の新聞などで紹介されるようになります。1998年、「Rondônia 国際フェスティバル」で初の個展が開催され、大きな反響を呼びます。その後、「クリチバ市国際写真ビエンナーレ」（パラナ州）に第2回（1998年）、第3回（2000年）と連続で紹介され、高い評価を受けました。

1999年、大原は家族に見守られながら89歳で永眠します。2008年、日本人のブラジル移民100周年の記念の年に、遺族によりオリジナルプリント、ネガフィルム、写真用機材、蔵書、日記など一連の資料が、「モレイラ・サーレス財団」（IMS：ブラジルの写真や文学、音楽などを収集研究する機関）に寄贈されました。

本展では、IMS のコレクションから、約180点のプリントを展示します。遙かブラジルの地に渡り、家族や仲間たちと切り拓き育て上げた広大な農場、そこで働く農民の日常風景、そして愛する家族の姿をこつこつと穏やかに写した大原の写真から、人々の心に存在する普遍的な人間や自然への賛歌を感じていただけることでしょう。

■本展の見どころ

- ・1909年に高知に生まれ、1927年にブラジルに農業移民として渡った大原治雄の写真を日本で初めて紹介する展覧会である。大原はブラジルでは高い評価を受けているが、日本ではこれまで紹介されたことが無く、知られざる写真家の発見となる展覧会である。
- ・展覧会では、1940年代から60年代に撮影された作品を中心に約180点のモノクローム・プリントが展示される。また、大原が妻・幸の思い出を編集し子供たちに手渡したという「アルバム帖」、渡伯以来書き続けた日記、カメラなどの関連資料が、高知会場のみ特別展示される予定である。

■モレイラ・サーレス財団 INSTITUTE MOREIRA SALLES IMS

ブラジルの銀行（Unibanco ユニバンコ）が設立し、モレイラ・サーレス家の出資により運営されている文化財団。写真、音楽、文学、映像の部門のコレクションを形成している。研究、展示の他、季刊誌『ZUM』や展覧会カタログ、写真、文学、音楽の出版も手掛けている。

大原治雄の作品資料などブラジルの最も重要な写真家30人のコレクションを、リオ・デ・ジャネイロ市にあるIMSの「フォトグラフィー・アーカイブ・アンド・リサーチ・センター」（写真保存専門部門）で維持管理している。2017年にはサンパウロにモレイラ・サーレス美術館がオープン予定である。

チェ・ゲバラを取り上げた映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』などを監督したウォルター・サーレスはサーレス家の一人。

大原治雄写真展

——ブラジルの光、家族の風景
高知県立美術館 2016.4.9-6.12

大原治雄略歴



大原治雄, 86歳, 1996年 撮影: Saulo Haruo Ohara

- 1909 11月5日、高知県吾川郡三瀬村石見に生まれる。父大原正治と母国寿の三男三女の長男。
- 1927 17歳で、家族らと共にブラジルに渡る。
- 1933 パラナ州ロンドリーナに最初の開拓者として入植し、ジャングルを切り開き農地を開拓していった。
- 1934 眞田幸と結婚。移動写真屋ジョゼ・ジュリアーニ（北パラナ土地会社社員で、治雄に写真の世界を紹介した）が結婚式を撮影する。
- 1938 ジョゼ・ジュリアーニから入手したおもちゃのような小型カメラで、治雄の最初の写真《オレンジの木の隣にいる幸》が撮影される。
- 1951 ロンドリーナ市の新空港建設のため、1933年の入植以来開拓してきた土地、住居が全て破壊される。次第に写真に専念するようになり、サンパウロ屈指のカメラクラブ「フォトシネクラブ・バンデイランチ」（サンパウロ）に入会し、以後、写真サロンに積極的に参加しはじめる。
- 1956 ロンドリーナ市立図書館の第1回国際写真展で受賞し、賞品としてカメラ（フォクトレンダー ベッサ）を得る。続いてパリの国際写真展に出品し受賞。
- 1959 ロンドリーナ市制25周年記念第2回国際写真展（ロンドリーナ市立図書館）に出品、入賞。
- 1973 妻幸が死去。治雄は自室にこもり、9人の子どもたち一人一人のために、幸の思い出とともに、その子の特徴や家族の歴史を綴った「アルバム帖」を作成する。
- 1979 この頃から、白黒写真をやめ、暗室も閉じ、カラー写真だけを撮影するようになる。
- 1998 初の個展“Olhares”（『眼差し』）展が、ロンドリーナ国際フェスティバルのプログラムの一環として、開催され、大きな反響を呼ぶ。第2回クリチバ国際写真ビエンナーレでも開催される。
- 1999 治雄の健康状態が悪化し、8月25日、死去。治雄はブラジルに渡って以来、一度も日本に帰ることなく、70年余りをブラジルで暮らした。
- 2000 第3回クリチバ国際写真ビエンナーレで特別展示される。
- 2008 モレイラ・サーレス財団に、治雄の作品や関連資料が、遺族より寄贈される。日本人のブラジル移住100周年記念事業の一環で、“Japão – Mundos Flutuantes”（『日本-浮世』）展がサンパウロ市で開催され、以後ブラジル国内各地を巡回し、大きな話題となる。
- 2015 NHKドキュメンタリー番組「新天地に挑んだ日本人—日本・ブラジル120年」「国境を越えて—日本-ブラジル修好120年」で、大原治雄が日本で初めて紹介され反響を呼ぶ。

大原治雄写真展

——ブラジルの光、家族の風景
高知県立美術館 2016.4.9-6.12

■基本情報

展覧会名 大原治雄写真展—ブラジルの光、家族の風景
会 場 高知県立美術館 高知市高須 353-2
会 期 2016年4月9日(土)～6月12日(日) 会期中無休
9:00～17:00(入場は16:30まで) 初日は10:00からの開展式終了後
観 覧 料 一般前売720円・一般900円(720円)・大学生600円(480円)・高校生以下は無料
※()内は20名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者(2,580円)は無料。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とそ
の介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。
主 催 高知県立美術館、モレイラ・サーレス財団、駐日ブラジル大使館、NHK高知放送局
後 援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテ
レビ、KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送
企画協力 株式会社コンタクト

巡 回 館 【兵庫会場】伊丹市立美術館 2016年6月18日(土)～7月18日(月・祝)
【山梨会場】清里フォトアートミュージアム 2016年10月22日(土)～12月4日(日)

【式典と記念講演会のお知らせ】

4月9日(土) 10:00-12:00

10:00-10:30 テープカット・セレモニー、展覧会観覧

展覧会開催を記念して、テープカットの式典を行います。

出席予定 アンドレ・コヘア・ド・ラーゴ駐日ブラジル大使

セルジオ・ブルジ氏(モレイラ・サーレス財団写真部門総監督)

大原家ご遺族のみなさま

尾崎正直高知県知事

会 場 高知県立美術館2階 大原治雄写真展会場前

11:00-12:30 記念講演会

本展監修者セルジオ・ブルジ氏による講演会。大原治雄作品の魅力をお話しいたします。

会 場 高知県立美術館1階講義室

入場無料、約60席

■お問い合わせ

高知県立美術館 学芸課 影山千夏

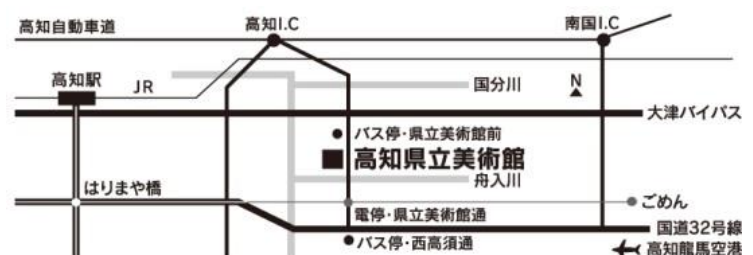
〒781-8123 高知市高須 353-2

TEL 088-866-8000/FAX 088-866-8008

HP <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum/>

E-mail museum@kochi-bunkazaidan.or.jp

■交通案内



■路面電車：はりまや橋からとさでん交通路面電車「ごめん」、「領石」または「文珠通」行きで15分、「県立美術館通」下車。北へ徒歩5分。■バス：とさでん交通バス「高知医大線」・「県立美術館前」下車すぐ。とさでん交通バス「高知県立大学・医療センター線」・「美術館通」下車。北へ、徒歩5分。■空港連絡バス：高知龍馬空港から、高知市内一空港間を結ぶ連絡バス「西高須通」で下車、北へ徒歩約10分。■車・タクシー：JR高知駅から約20分。高知龍馬空港からは30分、高知自動車道南国インターから15分、高知インターから10分。

大原治雄写真展

——ブラジルの光、家族の風景

高知県立美術館 2016.4.9—6.12

■ 広報用画像

広報用画像として、24点をご用意しております。ご希望の作品番号をお知らせください。

*画像の使用に際し、以下の点をご注意ください。

①キャプションは、作家名、作品名、撮影年、撮影場所、コピーライトを必ずご記入ください。

●コピーライト：©Haruo Ohara/ Instituto Moreira Salles Collections

②画像のトリミングや文字のせなどの変更はできません。

③掲載（放送）後は、掲載誌（紙）、DVD、CD等を3部、お送りください。

*担当：学芸課 影山、長山、長野



1

コーヒーの収穫に向かう朝、1940年 パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ



2

霜害の後のコーヒー農園、1940年頃 パラナ州ロンドリーナ



3

家族の集合写真、1950年頃 パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ



4

三味線を持つ治雄の祖母・梅治、1941年頃 パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ



5

治雄の子 シロとマリア、1948年 パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ



6

コーヒーの実の天日乾燥場：治雄の息子・スナオ、1949年頃 パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ



7

一服：シャカラ・アララの雇い人たち、1945年 パラナ州ロンドリーナ



8

シャカラ・アララの中心地、1950年代 パラナ州ロンドリーナ



9

雨後のロンドリーナ駅の操車場、1950年代 パラナ州ロンドリーナ



10

泥：ブラジル通り、1950年 パラナ州ロンドリーナ



11

花壇での遊び、1950年頃 パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ



12

朝の雲、1952年 パラナ州テラ・ポア

大原治雄写真展

——ブラジルの光、家族の風景
高知県立美術館 2016.4.9-6.12



13

セルフポートレート：富田農園の竹林にて、
1953年 パラナ州ロンドリーナ



14

治雄と幸、1954年頃 パラナ州



15

眞田準の農地、1955年 パラナ州ロンドリーナ



16

治雄の娘・マリアと甥・富田カズオ、1955年
パラナ州ロンドリーナ、富田農園



17

治雄の甥・眞田エリオとイチジクの木、1955年
パラナ州ロンドリーナ



18

渦、1957年 パラナ州ロンドリーナ



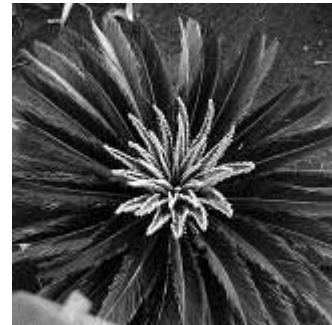
19

移動写真屋：師のジョゼ・ジュリアーニ、大聖堂そばのマルシャル・フロリアノ・ペイショット広場にて、1958年 パラナ州ロンドリーナ



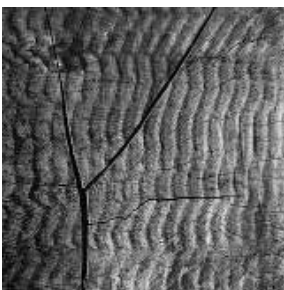
20

見物人、1961年 パラナ州ロンドリーナ



21

ソテツ、サン・ジェロニモ通りの家にて、1969年
パラナ州ロンドリーナ



22

オリジナルなもの、1969年 パラナ州ロンドリーナ



23

抽象：サン・ジェロニモ通りの家にて、1969年頃
パラナ州ロンドリーナ



24

樹、年代不明 パラナ州ロンドリーナ